

学校にいけない・いけない子をもつ

親同士がつながる場

解決できる場ではないけれど、それを目指す一端となることを願って開催しています（事務局）

ー 令和3年5月に参加された保護者の声をお届けしますー

「あるタイミングから、逆に行かなくていいと思うようになった。」

ある意味、大きなポイントかも知れません。「学校へ行くこと」そのものへの思いを聴かせてくれました。

学校へ行きにくくなった当初は、なんで行かんのやと強く言うことも多かった親御さんも、「こちらがいくら言っても絶対殻から出てこないし、家族内の関係も悪くなる」と気づいたそうです。

学校教育はどうあるべきなのでしょう？

「都会だったらフリースクールとかがいっぱいあるのに。」
「このご時世オンラインオンライン言っているから、早く学校もしてほしい」
「図書館でずっと勉強している子もいる。でもそれでも不登校になる。」



これはわがままなのでしょうか？

「学校へ行けば周りの子の目が気になる。」「人より何倍も感じてしまう。」
「義務教育だから学校には行かさないかんのは分かる。」
でも、行かんかったら、行けんかったら 子どもはどうするの？！

学校へ行くことで辛くなるのであれば、別の選択肢により学ぶ環境や過ごす場があってほしいと思うのは自然な流れではないでしょうか。その場からまた違う生き方が見えてくるかも知れません。

【 不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方 】

「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。

また、児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること。

参考：文部科学省HPより抜粋

同時に、将来の仕事についても皆さんが考えていました。

「自分たちが思っているよりも、仕事というのは幅広くある」
「知らず知らずのうちに、ルールとか枠にはまっているよね。」

確かに、未来は職業が変わると言われて久しくなりました。私たち大人側の固定観念では想像できない社会が広がっていくのかも知れませんね。

◆つなぐ場の開催について◆

奇数月の第3日曜日

午後1時30分～3時頃

地域交流古民家カフェ

AGALA2階（箕島本町商店街東入口付近）

駐車場有：AGALA東隣

（事務局） 有田市社会福祉協議会（宮本）

TEL 0737-88-2750

mail aridashi.shakyo@gmail.com

不登校・引きこもり研究者

同朋大学 川乗准教授の ワンポイントアドバイス

「学校は勉強するところ」であるのは間違いありません。
ただ、将来の長い先を考えると、人と接するコミュニケーションを学ぶ場は、子どものころには学校しかありません。
そういう意味で、その代わりになる場が多様であれば、自立して生きる力もそこで養うことができるのでしょう。
すぐには無理ですが、社会がその多様性を受け入れることも必要ですね。

